

臨床研修で身に付いた臨床知識、技術、態度について、「確実にできる、自信がある」「だいたいできる、たぶんできる」と回答した者の割合を、各診療科1ヶ月以上回った場合と、回らなかった場合で比較

	外科	産婦人科	小児	精神
【術後起こりうる合併症及び異常に対して基本的な対処ができる】	1.74	1.24		0.82
【妊娠の初期兆候を把握できる】	1.25	2.25	1.18	
【鼓膜を観察し、異常の有無を判定できる】	1.21	1.31	1.46	
【小児の採血、点滴ができる】		1.92	4.36	1.18
【患児の身体的苦痛のみならず、精神的ケアにも配慮できる】		1.28	2.10	1.19
【胸部単純X線でシルエットサインを判定できる】	1.46		1.36	
【直腸診で前立腺の異常を判断できる】	1.46	1.26		
【心尖拍動を触知できる】	1.28		1.45	
【日常よく行う処置、検査等の保険点数を知っている】	1.26	1.19		
【双手診により女性附属器の腫脹を触知できる】	1.23	2.37		
【電氣的除細動の適応を挙げ、実施できる】	1.22	1.26		
【小児の精神運動発達の異常を判断できる】		1.34	1.87	
【患児の年齢や理解度に応じた説明ができる】		1.25	2.11	
【代表的な精神科疾患について、診断および治療ができる】		1.22		1.91
【腰椎穿刺を実施できる】		1.20	1.31	

※オッズ比で比較 ※空白は有意差なし

ローテートの有無による習得度について(その2)

臨床研修で身に付いた臨床知識、技術、態度について、「確実にできる、自信がある」「だいたいできる、たぶんできる」と回答した者の割合を、各診療科1ヶ月以上回った場合と、回らなかった場合で比較

	外科	産婦人科	小児	精神
【レスピレーターを装着し、調節できる】	1.49			
【肺機能検査で閉塞性換気障害の判定ができる】	1.47			
【傷病の基本的処置として、デブリードマンができる】	1.44			
【学会で症例報告ができる】	1.30			
【在宅医療の適応の判断ができる】	1.26			
【超音波検査を自ら実施し、胆管拡張の判定ができる】	1.22			
【ショックの診断と治療ができる】		1.40		
【血液型クロスマッチを行い、結果の判定ができる】		1.29		
【高齢者の身体的、精神的、社会的活動性をできるだけ良好に維持するような治療法を提示することができる】		1.25		
【骨折、脱臼、捻挫の鑑別診断ができる】		1.20		
【心電図検査を自ら実施し、不整脈の鑑別診断ができる】		1.19		
【皮膚の所見を記述できる】		1.16		
【関節可動域を検査できる】		1.16		

※オッズ比で比較 ※空白は有意差なし

出典：平成28年臨床研修修了者アンケート

ローテートの有無による習得度について(その3)

臨床研修で身に付いた臨床知識、技術、態度について、「確実にできる、自信がある」「だいたいできる、たぶんできる」と回答した者の割合を、各診療科1ヶ月以上回った場合と、回らなかった場合で比較

	外科	産婦人科	小児	精神
【血液ガス分析の適応が判断でき、結果の解釈ができる】			1.49	
【救急患者の重症度および緊急度を判断できる】			1.48	
【ラ音を聴取し、記載できる】			1.39	
【高齢者の症状が非特異的、非典型的であることを理解して、身体所見をとることができる】			1.35	
【筋性防御の有無を判定できる】			1.34	
【診療録(退院時サマリーを含む)をPOS(Problem Oriented System)に従って記載し管理できる】			1.34	
【髄液検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる】			1.30	
【抗菌薬の作用・副作用を理解し、処方できる】			1.30	
【心雑音を聴取し、記載できる】			1.25	
【グラム染色を行い、結果の解釈ができる】			1.20	
【在宅医療を希望する末期患者のために、環境整備を指導できる】			0.85	
【精神科コ・メディカルスタッフ(PSW等)の業務を理解し、連携してケアを行うことができる】				2.15
【精神科領域の薬物治療に伴うことの多い障害について理解し、適切な検査・処置ができる】				1.97
【うつ病の診断基準を述べることができる】				1.68
【地域の精神保健福祉に関する支援体制状況に関する知識を持ち、適切な連携をとることができる】				1.39

※オッズ比で比較 ※空白は有意差なし

出典:平成28年臨床研修修了者アンケート

ローテートの有無による習得度について(その4) <有意差がなかった項目(例)>

臨床研修で身に付いた臨床知識、技術、態度について、「確実にできる、自信がある」「だいたいできる、たぶんできる」と回答した者の割合を、各診療科1ヶ月以上回った場合と、回らなかった場合で比較

【患者の病歴を系統的に聴取できる】

【患者と非言語的コミュニケーションができる】

【血液生化学的検査の適応が判断でき、結果の解釈ができる】

【腹部単純X線でイレウスを判定できる】

【胸部CTで肺癌による所見を見出すことができる】

【頭部MRI検査の適応が判断でき、脳梗塞を判定できる】

【手術の手洗いが適切にできる】

【静脈血採血が正しくできる】

【動脈血採血が正しくできる】

【輸液の種類と適応を挙げ、輸液の量を決定できる】

【導尿法を実施できる】

【局所浸潤麻酔とその副作用に対する処置が行える】

【術前患者の不安に対し、心理的配慮をした処置ができる】

【心マッサージができる】

【気管挿管ができる】

【インフォームドコンセントをとることが実施できる】

【指導医や専門医に適切なタイミングでコンサルテーションができる】

【診療上湧き上がってきた疑問点について、Medlineで文献検索ができる】

【高齢者の聴力・視力・認知面での障害の有無に配慮した、病歴聴取を行うことができる】

【守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮ができる】

【自己決定できない患者での代理決定について判断できる】

【基本的な臨床知識・技術について後輩を指導することができる】